

「学び方」と「言語」の学習－教科指導上の実践と考察－

英語科 出口 賢一

1 はじめに

平成 29 年度、屋久島高校に赴任して 2 年目を迎えた。本年度はステップアップ研修を受講する年でもあり、受講に際して多くの方々に指導や助言をいただき、様々な面で学びを深めることができた。前任校で参加したフレッシュ研修では、教科指導や生徒指導、そして自身が目指す教師像について考察し、以降自分なりのスタンスを少しずつ築いてきた。本研修を経て、フレッシュ研修の際に得た学びを再確認し、また自身の教師としてのあり方について、改めて考え直すきっかけとなった 1 年だった。

以下、本研修を通しての教科指導上の実践や考察について、述べることとする。

2 実践と考察

平成 29 年度、1 学年の授業を担当した。私にとって、屋久島高校に赴任するまで、普通科の英語の授業を担当するという経験がなかった。また、多くの生徒が受験するであろう大学受験というものを考慮すると、1 学年という時期は、基礎力の土台を構築するという意味では非常に大切なものである。したがって、「屋久島高校普通科 1 学年」の英語の授業すべきことを、生徒の実情やこれまでの進路実績を参考に、慎重に吟味し、実践した。中でも、留意したことは以下の 2 点である。（ただし、後述することは、言語活動上の指導留意点ではなく、文法知識や読解力習得における取り組みとする）

まず、参考書や課題等を通して「自身で学びとる」力をつけるよう、声かけを徹底した。英語という科目の特性上、学習すべき全てのことを授業のみでまかなうことは難しい。例えば、単語やイディオムなどは、授業で触れていないものも模試や実際の入試に使われることが多くある。さらに、（文法項目を扱う）授業では、学習内容を確実に理解してもらうために、説明や解説に時間を割くことが多く、問題演習は休日課題冊子等を使って行うことが多い。よって、授業での学びや解説に加え、単語帳や休日課題等の冊子を使ってどのように学ぶかという、いわゆる「学び方」の学習に力を入れた。

具体的には、休日課題として課した問題演習については、解説書や文法書、さらには授業でまとめたノートを使って、必ず訂正ノートにまとめてくるように指示した。間違えた問題について、自分は何の知識が足りなくて間違えたのかを「自分で」調べてくることで、この問題では何が問われているのかを見抜く力を鍛えるためである。

当初は間違えた問題と正しい回答をノートに写して提出するだけの生徒も見られたが、ノートを細かくチェックし、なぜその問題に答えることができなかったか、きちんと分析するという訂正方法を根気強く導くことで、生徒たちは徐々に上述したツールを使って「自力」で学ぶことができるようになってきた。次の段階に引き上げるためには、自分でまとめた訂正ノートを使って学び直す作業を徹底できるよう伝えていかなければならない。

現状、訂正の方法がある程度定着してきてはいるが、生徒たちは分析したノートを使いこなせていない。つまり「自分が間違えた問題＝自分に足りない知識」がまとめられたノートを頭に入れる作業が不足している。このノートを使って学習することは、自分に必要な知識を見直すために、効率の良い学習方法の一つである。よって、訂正したことをさらに自分のものにできるよう、学習を促すことが、今後の教科指導上の課題の一つであると考えている。

以上が「学び方」についての実践と考察である。次に、「言語としての英語」学習について触れる。

私が担当した「1 学年」という学年を担当するにあたり、もうひとつ力を入れて実践した点は、英語というひとつの「言語」の基礎知識の理解である。日本語も英語もひとつの「言語」である以上、言語運用上、さらには文法上共通している部分が多くある。よって、「英語という言語」というよりは、「ひとつの言葉としての英語」という観点で授業展開を行った。

例を挙げるならば「関係代名詞」の用法についての学習である。「関係詞の **who** や **which** を用いて、2つの英文を1つにする」という一般的な解説の仕方(※1)は、私は全くナンセンスだと考える。なぜなら、実際の言語運用において、「2つの文を1つにする」場面など存在しないからだ。

(※1) 関係詞 **which**(目的格)を使った英文

私は去年父から買ってもらった時計を身につけている。

I have a watch. + My father bought me this watch last year.

= I wear a watch **which** my father bought me last year.

関係代名詞の本来の働きは「英語という言語に限って、このように2つの文を1つにするときに、使う…」ではなく、英語が「ひとつの言葉」である以上「関係代名詞を使わなければいけない場合」が存在するのである。もちろん「1つの言葉」である日本語にも「英語に直す場合に関係代名詞を使わなければならない」特徴が存在している。その特徴を考慮し、(※1)の例文においても、波線部の修飾部を英語にする際には、関係代名詞を使う必要性に注目する必要がある。その特徴とは、私なりの言葉で言えば、名詞を修飾する形容詞(節)が「文(=主語と述語をもつユニット)」であるというものである。

名詞を修飾する方法は日本語・英語において多数存在する。高等学校で学習する形容詞(句・節)の代表的なものを以下(※2)に示す。

(※2)

- ① 黒いネコ = the **black** cat (形容詞)
- ② 眠っているネコ = the **sleeping** cat (現在分詞 or 過去分詞)
- ③ イスの上で眠っているネコ = the cat **sleeping on a chair** (現在分詞+副詞句)
- ④ 養われるべきネコ = the cat **to be fed** (不定詞の形容詞的用法)
- ⑤ 私が公園で見つけたネコ = the cat **which I found in a park** (関係代名詞・目的格)

①～⑤の下線部は全てネコという名詞を修飾している修飾部である。しかし、この中の日本語を英語に直す際に、関係代名詞を使う必要があるのは、⑤だけである。なぜなら、先述したように、修飾部が「主語と動詞(述語)をもつ文」だからである。つまり、日本語において名詞修飾部が主語と動詞(述語)を伴っている場合、英語で表現する際には関係代名詞が必要である。このように、英語が特定の表現方法を(例の場合は関係代名詞を使うことを必要と)する場合、日本語に何かしらの特徴を持っているのである。よって英語学習者は、日本語と英語の意味上のリンクではなく、日本語と英語の言語構造上のリンクができるようになる必要があると私は考えている。この言語構造上の共通点を理解すること、つまり「英語」ではなく「言語」を知るべきであるという点が、私の英語学習におけるいち考察である。そのためには、「言語」に共通して存在している品詞や、主語動詞といった文の要素をしっかりと把握する必要があり、今年度の授業を通して生徒たちに学びを促してきた。

英語における「言語」としての特徴をつかむことは、難関大学の入学試験等で出題される難解な文構造を持つ英文の解釈や、アウトプット(自由英作文や発話)時の大きな助けとなる。このような言語としての英語の理解を持って、より複雑な英文解釈や文法問題に取り組んでもらいたい。

3 おわりに

以上「学び方」の学習と、英語という「ひとつの言語」についての見方や考え方を促すという2点に重きをおいた教科指導を、年間を通して行ってきた。自らの課題を見つけ、与えられたツールを使って解決する力と、「言語」の知識を持って、2学年においてさらに学びを深めてほしい。

英語科 学習指導案（コミュニケーション英語Ⅰ）

日 時： 平成30年2月8日(木) 2限目
場 所： 1年3組 教室
対 象： 情報ビジネス科 1年3組
(男子25名 女子14名)
授業者： 出口 賢一

1 単元(題材)名：Toothbrushing in Edo (*Vista English Communication I* 三省堂書店)

2 クラスについて：

明るく元気で、学習、資格取得、部活動に一生懸命取り組むクラスである。授業中もしっかりと顔を上げて説明を聞こうとする生徒が多く、積極的に授業に参加しているように感じる。英語については苦手意識を持っている生徒が多く、授業を通して基礎英文法や単語を改めて学習している。

3 単元について

本レッスンは、高校生の亮が、浮世絵をはじめとする日本文化を紹介するという設定の英文であり、文法項目としては動名詞を扱っている。章末には褒める表現を使った言語活動も用意されていることから、文法項目である動名詞とともに、褒める表現の学習を目標のひとつとして設定した。

本文の内容を理解すると共に、動名詞や褒める表現に注目しながら授業を展開したい。

4 単元（題材）の目標：

- (1) ペアワークなどで間違いを恐れずに積極的に話そうとしている。(関心・意欲・態度)
- (2) 英語を聞いたり読んだりすることで、概要や要点を理解することができる。(理解)
- (3) 褒める表現・肯定的な言葉を用いて簡単なコミュニケーションがとれる。(表現)
- (4) 動名詞の知識がある。(知識・理解)

5 単元（題材）の評価規準

- (1) 間違いを恐れずに積極的に話そうとしているか。(関心・意欲・態度)
- (2) 英語を聞いたり読んだりすることで、概要や要点を理解し、簡単な発問に答えているか。(理解)
- (3) 学習した内容を用いて簡単なコミュニケーション活動ができたか。(表現)
- (4) 動名詞の知識があるか。(知識・理解)

6 指導計画（全5時間）

1 時間目：文法事項(動名詞)の導入

2 時間目：褒める表現の導入～Section1（語彙・音読・内容理解等） 本時

3 時間目：Section1～Section2 （語彙・音読・内容理解等）

4 時間目：Section3 （語彙・音読・内容理解等）

5 時間目：Review, Practice (章末における内容と文法のまとめ)

7 本時の目標

- (1) ペアワークなどで間違いを恐れずに積極的に話そうとしている。(関心・意欲・態度)
- (2) 英語を聞いたり読んだりすることで、概要や要点を理解することができる。(知識・理解)
- (3) 褒める表現・肯定的な言葉を用いて簡単なコミュニケーションがとれる。(知識・理解)

8 授業展開 褒める言葉：Positive Words(以下 PW)についての導入・活動 ～ 教科書 Section1

時間	展開	生徒の活動	指導上の留意点	活動				評価
				R	L	W	S	
5	あいさつ Warm Up	・単語学習ペアワーク(Sheet1) ・対話学習ペアワーク(Sheet1)をそれぞれ行う。	・スクールタイマーを使い、ペアワークをテンポ良く行う。 ・全体で確認する。		○		○	(1)
10	PW の導入	・ペアワーク(Sheet2-①)(知っている PW について) ・ペアで話し合った内容について発表する。	・どんな PW を知っているかペアで確認させる。 ・生徒が発表しやすいような雰囲気をつくる。 ・板書にまとめる。					(1) (2)
10	PW を使った活動①	・ペアリーディング活動で、どのように PW が使われるか確認する。(Sheet2-②) ・単語だけでなく、何かを褒めるときに使うフレーズを知る。	・PW を強調ことで相手に伝わる印象が変わることを伝える。 ・英文中の共通点を探す。	○	○			(1) (3)
15	PW を使った活動②	・ワークシートの問題に答える。(Sheet2-③) ・ペアワーク PW を使った文章を交互に伝える。 ・グループワーク ペアの良いところを共有する。 ・PW まとめ	・板書を参考にさせる。 ・話すとき・聞くときのメリハリをつけるよう促す。 ・「褒める表現」を読解や普段の学校生活にもリンクさせる。				○	(1) (3)
9	内容理解 (音読練習まで)	・本時に扱う部分の音読を通して、新出単語の意味や発音の確認をする。 ・ペアリーディングでお互いを確認し合う。 ・板書を用いて内容説明に入る。	・CD に続けて新出単語・本文を読み、リピートする。 ・発音等を相互学習する。 ・説明を聞き、板書をとる。	○	○			(2)
1	まとめ Closing	次回の連絡等						

1 年()組()番 ()

Let's Learn " Positive Words "

- ① What kind of Positive Words do you know? (どんな種類の～)

--

- ② Let's read in pairs. …ペアが読む英文の中にある Positive Words を探せ！！

Your Story is

Pattern A

I like Japanese animations. The stories are **very interesting**.
There are many settings like school life, love, history and so on.

I like anime-pictures too. The colors are **beautiful**. Characters are
very **cute**, and musics are **fantastic**.

I think that Japanese animation has **high quality**.

※ First Time(1 回目)…普通に読む

Second Time(2 回目)…**太字(Positive Words)**を強調して読む

- What positive words did you find in story-B.

(**B のストーリー** から聞き取れた 5 つの Positive Words を書いてみよう)

--	--	--	--	--

- 人やものを褒めるときに使う表現

- ③ 例にならって、相手をほめろ！！

例：I like your shoes. The shoes has wonderful color. It's nice!!
